

# 光



2023年  
1月11日|水|→17日|火|  
10:00-18:30  
-初日は「15時」から  
-最終日は「17時」まで  
会場=文房堂ギャラリー | 入場無料

# 陰



Someya Satoshi x Tanihara Natsuko  
染谷聡 x 谷原菜摘子

## Darkness and Light: A Deep-coiled Tension

### わだかまる

### 光陰

「光陰」とは光と影であり、古代から現代まで流れている歲月であり、景色でもあります。

本展は、ないじえる芸術共創ラボに参加しているアーティスト・イン・レジデンス(AIR)の2名が、様々な分野の研究者とともに日本の古典籍を紐解き、対話することを通して生まれた新たな作品世界を公開します。

漆芸家の染谷聡氏は、「加飾」の技法を「行為」や「読み物」として捉え、漆という素材が持つ果てしない時間や物語など、漆芸の本質的な思考を追い求めて作品を制作してきました。日本文化における「飾り」や「遊び」といった遊戯的思考についてより深く考えたいという思いから、ないじえるに参加した染谷氏は、古典と漆芸との共通点として、「縮景」と「写し」という、二つのキーワードにたどり着きました。持ち運べない「景色」を「縮小」して愉しむ「縮景」、文化的な継承を意図しているものから、単純な写し間違えまでもを含む「写し」。そうした深層に潜むイメージを文学的に読み解き、そこから映し出される「景色」をご覧いただきます。

一方、谷原菜摘子氏は自身の記憶、民話や伝承、さらには現代社会の問題を反映させた独自の物語を創り、それらを起点として作品を制作しています。漆黒のペルベットに鮮やかな妖艶とシメジメとした暗鬱が同居した不思議な作品世界を展開している谷原氏は、古典籍の中にも通じる闇と光の物語を探し求め、古典を自身の世界観で再解釈・再構築することを通して、そこから生まれる汚穢と煌めきを混濁した新しい美の世界を創り上げました。

### 国文学研究資料館と ないじえる芸術共創ラボについて

国文学研究資料館(国文研)は日本の生活と精神文化遺産である古典籍を国内外に広く求め、調査・公開などを行っている研究機関です。  
ないじえる芸術共創ラボは、国文研で培ってきた古典籍の数々と専門家によるネットワークを、研究者コミュニティの外側に開放しようと、二〇二七年にはじまったプロジェクトです。アーティスト・イン・レジデンス(AIR)とトランスレーター・イン・レジデンス(TLR)プログラムを通して、多領域で活躍するクリエーターたちを国文研にお招きし、研究者と共に古典籍の魅力を探求し、創作活動を行っています。

Darkness  
and Light:  
A Deep-coiled  
Tension



# わだかまる

### ないじえる芸術共創ラボ二人展 染谷聡×谷原菜摘子 わだかまる光陰

NIJL Arts Initiative Paired Exhibition Someya Satoshi x Tanihara Natsuko  
Darkness and Light: A Deep-coiled Tension

会期 2023年1月11日(水)~1月17日(火)  
10時~18時30分  
(初日は15時から/最終日は17時まで)  
入場無料

主催 国文学研究資料館  
助成 独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁  
公益財団法人 花王芸術・科学財団  
お問い合わせ 国文学研究資料館管理部学術情報課  
ないじえる芸術共創ラボ担当  
e-mail: nijl\_arts\_initiative@nijl.ac.jp

\*掲載画像と展示作品は異なる場合があります。

### イベント

ないじえるでの活動や本展の見どころなどについて、  
アーティストの二人が動画でご紹介します。  
どうぞこちらのWEBページからご覧ください。

<https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl/event/futariten/>

### 掲載作品



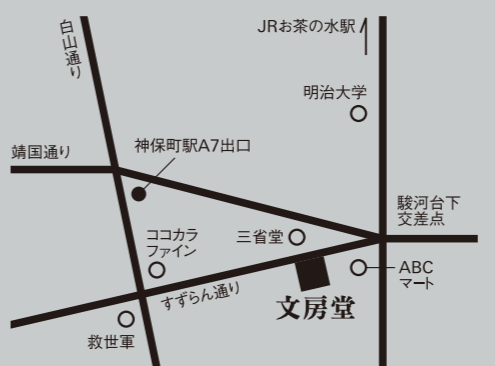
表屏左 | 染谷聡  
1.『東海道五十三駅 鉢山図絵』日本橋  
(嘉永元年(1848)刊、国文学研究資料館蔵)  
2.《みしき#47》Vessel for Landscape#47  
3.《みしき#37》Vessel for Landscape#37  
4.《みしき#43》Vessel for Landscape#43

### アクセス

— 地下鉄「神保町」駅 都営三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線 A7・A5出口より徒歩約3~5分  
— JR「御茶ノ水」駅 御茶ノ水橋口より徒歩約7分  
— 地下鉄「新御茶ノ水」駅 東京メトロ千代田線 B5出口より徒歩約7分



表屏右 | 谷原菜摘子  
5.『無常』(部分掲載 3点)  
6.『長谷雄草紙』  
水となって流れ去った美女  
(鎌倉~南北朝時代、永青文庫蔵)



Bumpodo  
GALLERY

東京都千代田区神田神保町1-21-1 文房堂ビル4F  
\*ギャラリーへは階段がございますので、エレベーターをご利用ください。  
<http://www.bumpodo.co.jp/gallery/>

新型コロナウイルス感染症拡大予防に、ご協力をお願いいたします。詳細は、本展のWEBページよりご確認ください。



公益財団法人 花王 芸術・科学財団

# 画家 谷原菜摘子



Tanihara Natsuko

私はこれまでの作品制作において、最初に独自の物語を創りあげることが重要視してきました。これらの物語には社会世相や個人のトラウマ、民話や神話などを反映させています。ないじえるに参加したことにより、何百年も前に創られた物語と現在の自分の物語が接続されたと、確かに実感できる瞬間がありました。本展では『長谷雄草紙』から着想を得た作品「無常」と、これまで絵画化されなかった『西山物語』から、特にかへという女性の登場人物に焦点を当て構成した作品を主軸に展示致します。

1989年埼玉県生まれ。2021年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程美術専攻(絵画)修了。2015年第7回網谷幸二賞、2015年京展・京都市美術館賞、2016年VOCA奨励賞、2018年京都市芸術新人賞、2021年京都府文化賞奨励賞、2022年咲くやこの花賞などを受賞。

黒や赤のベルベットを支持体に、油彩やアクリルのほかにグリッターやスパンコール、金属粉なども駆使し、「自身の負の記憶と人間の闇を混淆した美」を描く。

2017年五島記念文化賞新人賞を受賞し、2017年秋～2018年秋の1年間、五島記念文化財団助成によりフランス・パリへ研修滞在。現在は帰国し、関西を拠点に制作活動を行っている。



「西山物語のためのドローイング」(3点)



# わたなかま

# 光

ZUL Arts Initiative Paired Exhibition  
ないじえる芸術共創ラボ二人展  
Someya Satoshi x Tanihara Natsuko  
染谷聡 × 谷原菜摘子

# 陰



〈みしき#22〉Vessel for Landscape#22



〈みしき#41〉Vessel for Landscape#41



〈みしき#42〉Vessel for Landscape#42

日本橋で手のひらほどのコンクリート片を拾った。どこにでもありそう

な何てことのない物だが、これも風景の欠片と見れば愉快だ。

本展では『鉢山図絵』を糸口に、これまで制作してきた作品『みしき』を

展開する。風景をコラージュして縮小し、私的なものにしてゆく「縮景」

という装飾趣向に親和性を感じたからだ。『鉢山図絵』の題材でも

ある『東海道五十三次』の地をいくつか巡り、收拾したものを飾るうつ

わで景色を写したさうと思う。

1983年東京都生まれ。2014年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。博士号(美術)取得。2015年京都市芸術新人賞受賞。

日本文化における「飾り」や「遊び」といった趣向に関心があり、漆の装飾技法や意匠を糸口とした作品制作や調査を行う。

最近の展示に、「根の力」(大阪日本民芸館、2021年)、「札幌国際芸術祭2020特別編」(北海道立近代美術館想定、2020年)、「DISPLAY」(MITSUKOSHI CONTEMPORARY GALLERY、2020年)などがある。



photo: Takeru Koroda

Someya Satoshi

# 美術家 / 漆芸 染谷聡